



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 86

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 86. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1959, 86: 47-52

ISSUE DATE:

1959-11-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186965>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 86

1959. 10月 (11月5日)

### 録 事

10月18日台風15号による被害状況視察並に水族館増改築計画の現場調査のため文部省教育施設部計画課長中尾龍彦・全大阪工事事務所長地引友次氏来所。京都大学事務司長横田亮・山本技術課長・生物理学部事務長・宮地所長・和歌山大学事務司長坂口半造・全藤野会計課長も同行。雨の中を被害現場を視察。台風被害が甚大な南海岸の波止場に代るべき北海岸に計画中の船場場の実現を陳情した。

この機会に、南海岸に台風で流失した大仲露店や観光ボート待合所の復旧に際し許さるべき地域の範囲を指示した。

10月27日前所長駒井先生御夫妻来所。戦前には見られなかった白浜や実験所の発展ぶりを何年ぶりに実見されて感銘を覚えられた模様である。

高松研究員は長崎で開催された第7回博物館大会(10月3~7日)に出席した。

山路・布庭両委員は島根県農林部委託の中、海干拓調査のため10月17~29日松江市に出張した。

南海委員は第30回動物学会大会に参加のため10月28~11月4日上京した。

10月31~11月4日の回もNSC0委託研究の田辺君潮流調査が大阪大学地球物理学研究室の中村秋南助教授他8名の手によって実施された。

山路委員著わすところの豪華な「フランクトン図鑑」が大阪の保育社より本月発行された。

# 業 務 概 況

## ◎ 10月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水産館発売	個人	7402	52819	154	5476	7556	58367
	団体	20589	93659	—	—	20589	93659
交通公社発売		4404	33591	—	—	4404	33591
明光バス発売		19910	125417	84	5484	19994	130901
合 計		52305	305558	238	10960	52543	316518
系 料	白浜町役場販売他					28	532

団 体 : 一般 245組, 学生 42組 合計 287組

## ◎ 10月の事業収入

(今年度累計)

### 観光券売上金

窓口発売	442520	2,532,000
交通公社クーポン	72383	538,977
明光バス観光券	328,513	2,578,357※
予金・積立金利子	—	308,386
雑 収 入	27,988	171,136
興業地下	250	1,080
緑地公社地下	23,560	174,970
計	895,214	6,304,906

※ 明光バス観光券未収分 動植物共通大人券 3261枚  
全 上 小人券 13枚

## ◎ 10月の支出

### 水族館経費

業 務 内 容	金 額	累 計	備 考
人 件 費	94,486	709,876	
会 費 費	740	69,904	
備 品 費	17,140	59,410	海水タンク水位自動調節装置
消 耗 費	14,672	124,719	
手 業 費	39,660	328,393	
維持 費	110	92,140	
共 他 諸 手 費	30,437	315,123	文部省施設開発費直接前他
積 立 金	186,496	1150,890	
合 計	383,741	2850,460	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	27,463	97,463	内海・山路委員
奨 学 金	—	12,000	
備 品 費	9,800	27,683	水産学全集
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	162,951	
役 務 費	—	22,550	
合 計	37,260	571,801	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	47,396	248,941	第7回全国博物館大会参加旅費
備 品 費	—	15,000	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	—	1,860	
合 計	47,396	265,801	

臨時費

支出なし

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	383,741	2850,460
実験所経費	37,263	571,801
博物館経費	47,396	265,801
臨時費	—	50,000
計	468,400	3,738,062

◎ 10月末現在高

前月よりの繰越	2,140,030
今月の収入合計	895,214
今月の支出合計	468,400
現 在 高	2,566,844

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増 減
入 場 者 数	51,575	52,543	+ 968

## 水族館記事

- ◎ N0.29からN0.38までの水槽は、水槽の上から給水して、排水も上部からおこなわれていたが、これらの水槽はいずれも深いため水の循環が悪いと思われるので塩化ビニールパイプによって海水を水槽の底から供給するようにした。10月31日までにN0.29からN0.35までの水槽についてこれを行なった。
- ◎ アオリイカが15日に2個体入槽した。また、コウイカが29日に3個体入槽したので、あわせてN0.32の水槽に入れた。アオリイカの2個体は餌付けに成功している。
- ◎ コバンザメは1日に2個体入槽、4日にも2個体入槽した。13日に1個体が白癩病で死亡したが、現在5個体いるので、うち4個体をN0.34の水槽に移した。N0.34の水槽で、ひどい白癩病にかかったが、20日に給水を水槽の底からおこなうようになってから白癩が少なくなってきた。
- ◎ ヤドカリ類は8月31日には8個体、9月30日には3個体のみ生きていたが、10月28、29、30、31日に合計約60個体入槽した。主なものはソメンヤドカリ、イシダタミヤドカリ、オニヤドカリでいずれも4〜10個体のベニヒモイソギンチャクをつけている。
- ◎ イトヒキアジは4、5日に5個体とも死亡した。白癩病に全身をおかされていた。
- ◎ 8月2日に入槽したアカウミガメの赤ん坊は中旬に4個体、下旬に7個体死亡している。水温の低下が関係あると思われる。
- ◎ 10月31日現在、観望水槽に收容飼育中の動物は総計143種、1373個体以上で、その内訳は次の通り。

ヒドロ虫類	2種、	多毛類	1種、	ウミシタ類	3種、
ウミトサカ類	1、	カブトガニ類	1、	ヒトデ類	5、
ヤギ類	3、	エビ類	8、	ウニ類	9、
イソギンチャク類	7、	ヤドカリ類	4、	ナマコ類	7、
イシサンゴ類	8、	カニ類	9、	軟骨魚類	1、
スナギンチャク類	1、	二枚貝類	5、	硬骨魚類	50、
ハナギンチャク類	1、	巻貝類	11、	カメ類	3、
ホフキムシ類	1、	イカ類	2、		

# 博 物 館 記 事

- ◎ 10月23日湯崎沖4石で採集されたサクラタイ1尾を入手した。
- ◎ 11月5日瀬戸崎で採集されたイッテンアカタチ及びインドアカタチ各1尾を入手した。

## 資 料

- ◎ 10月の気象 (9時観測)  
高水槽室 (水温計室はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(14)	2	4	8
室 温(°C)	$\frac{21.0 \sim 25.9}{22.9}$	$\frac{19.0 \sim 23.1}{20.1}$	$\frac{19.6 \sim 22.0}{20.7}$
水 温(°C)	$\frac{23.25 \sim 24.53}{24.09}$	$\frac{21.87 \sim 24.23}{22.66}$	$\frac{21.60 \sim 22.80}{22.11}$
比 重(0℃)	$\frac{22.94 \sim 25.03}{24.38}$	$\frac{24.38 \sim 25.39}{24.81}$	$\frac{24.14 \sim 25.03}{24.78}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{23.06 \sim 24.20}{23.62}$	$\frac{21.21 \sim 23.18}{21.92}$	$\frac{20.82 \sim 22.10}{21.40}$
比 重(0℃)	$\frac{23.14 \sim 24.63}{24.22}$	$\frac{23.57 \sim 24.89}{24.35}$	$\frac{24.07 \sim 24.76}{24.59}$

## 来 訪 録

10月14日 海苔水産館奥野良之助氏(魚受採集のため)

昭和34年11月5日 (NO. 86)

編集兼  
発行所

内海 富士夫

発行所

瀬戸内海温泉会  
和可山温泉  
瀬戸内温泉  
(Tel. 白浜温泉 515)